

レジメン登録フォーマット

申請年月日		使用開始日	平成27年1月1日
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	化学療法委員会承認 平成 年 月
レジメン名	CDDP+CPT-11(小細胞がん)		
疾患名	小細胞がん	適応の備考	がん腫:胃・胆のう・膵・肺・食道などの小細胞がんを使用する。
適応分類	進行再発		総コース数4コース、追加治療もあり
1コース日数	28 日間	総コース数	コース催吐性リスク/day1 高度、day8,15 中等度
抗がん剤投与量・投与日 シスプラチン 60mg/m <sup>2</sup> day1、イリノテカン 60mg/m <sup>2</sup> day1,8,15			
治療スケジュール・投与日程(投与日は●) (day)			

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
1	主ルート	点滴静注	フィジオ140輸液500mL	3 本 / body	4 時間	●																											
			4時間以上かけて投与																														
2	側管	点滴静注	生食250mL	1 本 / body	30 分	●						●																					
			プロイメド注150mg	1 本 / body		●						●								●													
3	側管	点滴静注	アロキシ注バッグ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●																											
			デキサート注射液6.6mg/2ml	1 本 / body		●																											
			デキサート注射液1.65mg/0.5mL	2 本 / body		●																											
4	側管	点滴静注	アロキシ注バッグ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分							●																					
			デキサート注射液1.65mg/0.5mL	3 本 / body								●																					
			デキサート注は、3.3mgでも可																														
5	側管	点滴静注	生食500mL	1 本 / body	2 時間	●																											
			シスプラチン	60 mg / m <sup>2</sup>		●																											
			シスプラチンと同量の生食を抜いてから混注する(合計500mLとする)																														
6	側管	点滴静注	生食500mL	1 本 / body	90 分	●						●																					
			イリノテカン	60 mg / m <sup>2</sup>		●						●																					
7	主ルート	点滴静注	フィジオ140輸液500mL	3 本 / body	4 時間	●																											
			4時間以上かけて投与																														
8	側管	点滴静注	生食100mL	1 本 / body								●																					
			デキサート注射液6.6mg/2ml	1 本 / body	30 分							●																					
9	側管	点滴静注	生食100mL	1 本 / body								●	●																				
			デキサート注射液6.6mg/2ml	2 本 / body	30 分							●	●																				
10	主ルート	点滴静注	生食50mL	1 本 / body	5 分							●																					

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例:Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

シスプラチン:希釈は生食のみ。

シスプラチン:腎毒性軽減のためhydrationが必要。

シスプラチン:適宜、利尿剤を投与。

・プロイメドは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。

・プロイメドは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。

・プロイメドの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。

がん腫:胃・胆のう・膵・肺・食道などの小細胞がんを使用する。

総コース数4コース、追加治療もあり